

慢性腎臓病と血液透析

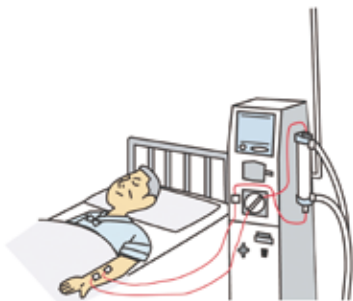
津島市民病院 腎臓内科部長

ふるたしんじ
古田慎司

血液透析

皆さん血液透析についてご存じでしょうか。何らかの疾患で腎臓の機能が低下する慢性腎臓病に罹患すると、尿が出にくくなったり老廃物が体に貯留し体に害をきたします。これに対し治療として食生活を改め薬剤の処方を受けても効果が不十分な際、腎機能の一部を肩代わりする治療として腎代替療法と呼ばれるものがあります。腎代替療法は腎移植、透析療法に分けられ、透析療法は更に腹膜透析と血液透析に分けられます。腎代替療法の中で血液透析を選択される方が多く、ここでは血液透析に関してお話をします。

血液透析は、体外に構築された中空の管に送血装置を使って血液を流します。管の両端には針があり、いずれも患者さんの血管に穿刺されています。一方から血液を抜き他方から体へ戻します。管の途中に接続された特殊な膜を通すことにより血液中の老廃物や余分な水分を取り除きます。週3回、1回当たり4時間前後治療を受けます。腎臓の機能が低下し様々なつらい症状が発現し、以前であればご自身の寿命を全うできなかった患者さんが血液透析を受けることでお元気になる、より長く生きられるようになりました。人工的に腎臓の機能の一部を長期に比較的安定して代替できる血液透析は、腎機能が低下した患者さんにとって素晴らしい治療法のひとつです。



血液透析の問題

現在の医療技術では患者さんにとって良いことばかりではありません。日常生活において通院および治療のため時間的制約を受けます。また、腎機能低下により尿排泄力が低下しているため、本来なら腎臓が48時間から72時間かけてゆっくり水分を体外へ排泄するのを4時間前後で取り除くため体に負担がかかります。

血液透析を受けると

血液透析を受け始めた慢性腎臓病患者さんからは、「食事がおいしくなった」「体が楽になった。遠くへ出かけることができるようになった」など、喜びの声を聞くことがほとんどでした。海外への観光旅行も行くことも出来ます。ハワイなどへ行かれ現地で血液透析を受けながら長期滞在された患者さんが何人もおられます。日常生活の制約は確かにあるものの皆さんが想像しておられるより自由度は高いと思います。

治療を決めるのは患者さん

腎機能が低下したとき腎代替療法(血液透析、腹膜透析、腎移植)を受けるか見合わせるかは大きな決断であり、患者さんが治療を正しく理解した上で自ら決定すべき事です。残念ながら、腎代替療法、特に血液透析に関し間違った知識を持っておられる患者さんは少なくありません。正しくない知識を基にしては適切な判断が出来ないため、私たちの役割のひとつにどのような治療かを正しく理解して頂くことがあります。生活習慣改善、薬物療法などによる効果が不十分な場合、そのままの治療を受け続けたらどうなるのか。腎代替療法を受けるとどうなるのか。更に腎代替療法の良い点、不都合な点を含めしっかりと理解して頂きます。

医師からのお願い

何事にも時期があります。医師から腎代替療法について説明の申し出があった時がその患者さんにとって適切な時期です。先延ばしにするのはよくありません。腎機能障害は悪化していく事が多く、腎代替療法は少なくとも数ヶ月の準備期間が必要であり治療が間に合わなくなることがあるからです。また、障害が進行すると水分貯留による呼吸困難や老廃物貯留による脳機能の低下により、正常な判断が出来なくなる可能性もあります。医師から申し出があったときは早めに説明を受けて頂くようお願い致します。

患者さんの幸せが私たちの幸せです。満足して頂ける治療を提供し患者さんの笑顔が見られるよう頑張っていきます。